



〈社会人の窓 3〉

悪天候時における水辺行事実施判断の難しさ

会長 澤井健二

今年の夏は、猛暑、豪雨、台風、地震と随分多くの天変地異が全国を襲い、全国で多くの犠牲者が出るとともに、甚大な被害が発生しました。謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。お陰様で淀川愛好会ではほぼ予定通りの活動を行うことができましたが、私の関わっているいくつかの活動では、かろうじて実施できたものや中止を余儀なくされたものも少なくありません。

まず5月13日には、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会の主催で木津川御幸橋右岸における「親子カヌースクール in さくらであい館」を予定していましたが、前日午後に現地を下見したところ予想外に水位が高く、流速も速くて危険と感じ、夕方に中止の判断を下しました。この行事は、数年にわたって継続してきた「カヌーでつなぐ琵琶湖・淀川流域圏」の新しい展開として、さくらであい館と合同で企画していたもので、中止することは断腸の思いでしたが、安全を第一に、気象予警報とは別に独自の判断を行いました。

8月3日には、同じくさくらであい館で「子どもの水辺サイエンスプロジェクト」を企画していたところ、連日の猛暑で午後には暑さ指数が危険域になることが予想されましたが、屋外活動が午前中で、かつ、すぐ近くに避難場所があることから、様子を見ながら実施することとし、無事に行事を終えることができました。

8月5日は、近畿水環境交流会 in 淀川点野の2日目で、終日淀川河川敷での活動であるため開催が危ぶまれましたが、現地に集まった上で危険と判断すれば会場を移動するなり、中止することとして、様子を見ながら結局最後まで行いました。ただし、同じ会場で並行して行われた淀川まるごと体験会は、子供の参加が多いことから、メニューを減らして午前中だけの催しとし、昼前に解散しました。

8月23日には、午後に東大阪市でわたしたちの大和川研究会による「わたしたちの大和川」講座が予定されていましたが、夕方に台風の接近が予想されたことから、午前9時に中止の判断がなされました。私はその知らせを聞いて参加を見送りましたが、実施を期待して集まった方のうちの数人は、安全の確保できる範囲内で施設探訪を短縮実施されました。

9月16日には、5月に中止したカヌースクールを改めて実施することにし、準備を進めていたところ、今度は9月4日の台風21号の通過に伴う琵琶湖水位上昇のため、数日前から瀬田川洗堰と天ヶ瀬ダムの全開放流が続き、またもや開催が危ぶまれましたが、毎日現地の様子をチェックしていたところ、宇治川の水位は高いものの、木津川の水位はさほど高くなく、危険はないと判断して、実施に踏み切りました。

このように、中止したもの、内容を変更したもの、計画通り実施したものの様々ですが、いずれもその判断には相当の迷いがあり、その難しさを痛感させられました。

(4ページに続く)

イベント報告

平成30年度 第1回 寝屋川再生ワークショップ

7月4日（水）に寝屋川上下水道局で、寝屋川再生ワークショップの会議が行われました。その会議では、寝屋川についての知識やこれからどのように再生・利用していくかの話し合いが行われました。それを踏まえて7月8日（日）に、9時から5時の間、寝屋川市内水路周辺をバスで巡り、寝屋川市役所の職員から説明を受けながら今後の活動について検討しました。約30名集まり、多くの意見が出て、とても有意義な時間となりました（M・D）

第11回 水辺の匠

7月21日（土）に滋賀県の瀬田川流域のウォーターステーション琵琶・アクア琵琶にて開催された水辺の匠の内の催し物の一つとして、摂南大学エコシビル部としてEボート乗船体験を行いました。定員は40名でしたが、大好評で乗船希望が定員を軽く超えました。台風襲来後の開催でしたが当日は天気がとてもよく、瀬田川洗堰の今期の最大放流直後ということもあり、川がとても綺麗で子供たちと一緒に川に入り楽しみました。（O・T）



春日野園夏祭り・日野川水辺フェスティバル

8月4日（土）に、京都市伏見区で行われた日野川水辺フェスティバルに参加しました。あらかじめ堰き上げた日野川にボートを浮かべて、春日野園（保育園）のお祭りに来た子供たちをボートに乗せて6～7分間ボートを押して動かし、子供たちに楽しんでもらいました。幼児たちは、親御さんと一緒に乗って楽しんでもらいました。子供達をボートに乗せて動かしている間、子供達と会話のできたので、とても楽しい活動でした。また、降りる時に子供達が1人1人笑顔で「ありがとう」と言ってくれたので、とてもやりがいのある活動で良い経験をしました。また来年も参加したいと思います。（A・M）

近畿水環境交流会 in 淀川点野

8月4日（土）、5日（日）に、近畿水環境交流会 in 淀川点野が行われました。4日（土）は摂南大学でシンポジウムがあり、河川に関わる学生・生徒・指導者の発表、国土交通省の方々の講演などがありました。5日（日）は点野砂州で、淀川まるごと体験会と合同で土のう積み体験、レンガアーチ橋作りなど、種々の水辺利用の実践を行い、午後にはEボートレースで会場が盛り上がりました。河川に関わる方々のお話を聞き、また実践することで知識を深めることができ、とても勉強になった22日間でした。（M・H）



平成30年度 淀川まるごと体験会

8月5日（日）に淀川点野で、淀川まるごと体験会が開催されました。今回は近畿水環境交流会との合同開催でした。酷暑のため開催時間が午前中のみに変更となり、イベントの数も制限されてしまいましたが、子どもたちや保護者ら約100名の参加



があり、Eボート、カヌー、SUPの体験は特に人気でした。このように、淀川を身近に感じることができるイベントがさらに増えるといいなと感じました。来年も参加したいなと思います。（M・H）

平成30年度 点野水辺づくりワークショップ（第10回）

8月18日（土）に点野水辺づくりワークショップがありました。午後に集合して初めに経過説明があり、その後に点野砂州とワンドの危険なところや注意するところを皆で確認をしながら歩いて見学しました。ねや川水辺クラブの竹井会長に要所要所で説明してもらいました。仁和寺地区にできた新しいワンドとの一体的な利用方法も考えました。見学を終えると点野自治会館へ移動し、注意点などを模型に書き出し検討を行ったり、意見交換を行ったりしました。（T・T）

シニア自然大学校

8月25日（土） 摂南大学において澤井名誉教授と石田准教授による「水辺保全と活用」の講義が行われました。午後は、淀川点野にてEボート体験を行いました。前日に台風による影響があったため、淀川全体での増水や濁りは見られましたが、参加者に風景等を楽しんでいただくことができました。（M・K）

たいこ橋さざなみフェスト

8月26日（日）に京阪八幡市駅周辺の放生川で、たいこ橋さざなみフェストが行われました。主に、かき氷やフランクフルトといった夏祭りの風物詩が広がっており、誰でも気軽に参加できます。エコシビル部の催し物としてキャンドルで道を作り、夜になるととても幻想的な景色が広がっていました。（M・R）



今後のイベント詳細

淀川愛好会秋のイベント「京都水辺保全ネットワーク研修会」～巨椋池流域見聞～

日時 2018年11月18日（日）9時半～16時

行程 9時半 淀川三川合流さくらであい館集合（京阪電車八幡市駅から徒歩10分） 行程等説明
10時 さくらであい館発
宇治川・天ヶ瀬ダム～木津川・流れ橋見学
12時半 食堂市番着（久御山町）
昼食休憩
13時半 食堂市番発
桂川・羽東師橋
15時 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー着
巨椋池流域模型ビオトープ見学
討論（宇治川オープンラボラトリー内流域研究センターセミナー室）
16時 京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーにて解散

移動手段 貸し切りバス（定員 50名）※集合場所までは公共交通機関でお越しください。

ただし、宇治川オープンラボラトリーで解散後のバスのサービスはありません。（京阪電車中書島駅まで徒歩約15分）

参加費 無料（ただし昼食代として1000円を徴収します。）

主催 京都水辺保全ネットワーク

申込 11月10日（土）までに、下記のいずれかへお申し込みください。

京都水辺保全ネットワーク 事務局長 上村隆明 byr11416@nifty.com 090-1580-3859 FAX 075-351-9656

会長 澤井健二 kenjisawai@mta.biglobe.ne.jp 090-2196-9594 FAX 075-575-2711

〈社会人の窓 3 続き〉

ところで、安全を確保しつつ、できるだけ行事を円滑に実施するには、事前の計画と現場での判断において、どのような対応が有効であるかについて、私見を触れてみたいと思います。行事といっても、双方向に連絡のとれない不特定の当日参加者を対象にする場合と、双方向に連絡のとれる予約者のみを対象とする場合とでは、対応も異なるでしょう。私はどの行事においてもできるだけ予約制で、連絡先を予め把握するようにしています。また、悪天候の場合を想定して、予備のメニューを作成しておき、募集案内にもそのことを示すようにしています。しかし、本メニューと予備メニューでは満足度が異なりますから、できるだけ本メニューで実施したいという気持ちは避けられません。その場合、あまり多くの方の意見を聞いていると迷いが増えますから、担当責任者を含む数名で協議して素早く判断することが有効でしょう。そして、判断結果はスタッフを含む参加者全員に素早く伝達することが重要です。それが困難な場合には、気象情報等による判断基準を定めておき、事前に参加者に知らせておくことも有効でしょう。

〈学生の窓 3〉

学 び

高木 長

私は摂南大学理工学部都市環境工学科に入学して、エコシビル部を知って入部しました。そして、顧問の先生が石田先生だったこともあり、石田ゼミを希望し配属となりました。そこで自然や淀川河川付近での活動が増えたり、目上の方との関りも持たせていただくことで勉強になったり、自分の社会に出るときのイメージがしやすくなりました。このような機会に触れることで大学に入ったばかりの時の考えや性格が変わり、視野が広がったり他人の考えを考えたりできるようになり成長につながったと感じています。

今振り返ると大学生活で多いのはエコシビル部の思い出でした。副部長をやらせていただくことになり、1・2回生の時のように言われたことをやるだけではなく、人を動かすことの重要性や、自分が主体となる活動の終わった後の達成感や充実感を知っていき、「好きなこと」「やりがい」となり頑張ることが出来ました。

ねや川水辺クラブの会議にも1回生から出席し、点野砂州やワンドの整備やイベントを開き地域住民への親水活動などに深く関わらせていただくことで、点野への理解につながり自然に対する関心となりました。とてもいい経験でした。

今年卒業予定ですが、大学での経験は、学生から社会人へと変わるこの転機に対する自信と大きな支えとなると実感しています。多くの方から学んだことを社会に出た時はもちろん、人生でもひとりの人間として成長できるように活かしていこうと思います。

(摂南大学理工学部都市環境工学科4回生・エコシビル部前副部長)

編集後記

この度、突然ですが、この『ヨドリックニュース』の編集担当を体調不良のため辞することにしました。『淀川愛好会』の活動状況を定期的に会員および関係各位にお知らせするメディアとしての十分な機能を果たせるようにするために編集[57号(2012年4月号)から本号まで]を引き受けました。しかし、「うん、これでよし!」と思われる“域”に中々辿りつけず、その思いが成就しないままの、道半ばでのリタイアとなり、皆さまにご迷惑をかけることになって心苦しく、申し訳ないと思っています。

これまでの皆さま方の温かいご協力とご支援に感謝申し上げますとともに『淀川愛好会』の今後の益々のご発展を心より祈念します。ありがとうございました。

編集長 相本太刀夫(元摂南大学薬学部教授)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX : 072-839-9125

HP : <http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail : ishida@civ.setsunan.ac.jp